

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 寛善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ~

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演 I

座長： 原三信病院 武井 実根雄

2. 当院泌尿器科における漢方方剤の使用状況について

清仁会洛西ニュータウン病院 泌尿器科¹⁾医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 泌尿器科²⁾岡村医院³⁾、公益財団法人 丹後中央病院 泌尿器科⁴⁾○高橋 彰¹⁾、塩山 力也¹⁾、益田 良賢²⁾岡村 靖久³⁾、福井 勝一⁴⁾

現代医療は依然として西洋医学が中心であるが、これだけでは十分な改善が得られない症例は確実に存在し、東洋医学に対する期待が高まっている。しかし東洋医学においてエビデンスが報告されだしたのは最近で、また演者らの世代は学生時代に東洋医学に関する教育を受けておらず、証を見ることなどが不得手で、とっつきにくい面があることも事実である。そこで演者は、2015年から積極的に漢方医学に関する研究会に参加して知識を得ることによって苦手意識を払拭し、日常診療で積極的に漢方方剤を使用する足がかりとした。これによって、漢方方剤の処方数は著明に増加し、有効と思われる症例を複数経験することとなった。対象は2013年の10月～12月の3ヶ月間と2016年10月～12月の3ヶ月間における、当院泌尿器科からの漢方方剤処方を後方視的に集計。この両期間の間には漢方医学に関するセミナーに数多く参加した。両期間の間での漢方方剤処方数と内容を比較し、またいくつかの有効例を報告する予定である。